

多様性のなかで結束する

お集まりの皆様、おはようございます。—*Einen schönen guten Morgen!*

シェリング大臣から身に余るご紹介をいただきました。感謝いたします。また、本日のこの討論会に招待いただきありがとうございます。ノヴォトニー総裁、そしてオーストリア国立銀行にも御礼申し上げます。オーストリア国立銀行は先日創立 200 周年を迎えられました。*Joyeux anniversaire!*

音楽の都ウィーンを再び訪れることができ嬉しく思っています。私はオペラが大好きなのですが、私の大好きなオペラのひとつヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの「魔笛」の初演は、ここで 200 年前に行われました。

表面上は「魔笛」は窮地にあるお姫様をハンサムな王子が救出する話のように見えます。より深く掘り下げると、これは、自然から文化、迷信から啓蒙、混乱という暗闇から新たな平和な時代という夜明けへの人類の進歩を表しています。

多くの点からこれは欧州の話だといえます。欧州の人々は、戦争と憎しみという遺産を抱えていました。「多様性のなかで結束する」という理想を抱きました。そして、平和を維持し経済と文化の繁栄を築くことができました。

しかし、その道は決してまっすぐではありません。今日欧州には、自らの文化的アイデンティティ、安全、雇用、収入、そして生活水準に懸念を抱く人々が余りにも多くいます。そしてその多くが、欧州が再び国境を閉ざし経済ナショナリズムを受け入れれば、全てが良くなると信じるようになっています。

これは、欧州プロジェクトの深刻な試練です。取り残されたと感じている人々のために、新たな展望を持ってこのネガティブな考えに今こそ立ち向かわねばなりません。欧州はひとつになることではじめて、繁栄とダイナミックさを手にすることができるのだと確信している人々は、進み出て声を上げなければなりません。そしてこれこそが、本日私がお話したい点です。

欧州は現在のような姿で誕生したわけではありません。1950 年代、崇高な芸術を生み出す「台本」はどこにもありませんでした。代わりに欧州は、長きに渡り変化を繰り返し、それと共により多くの国、文化、言語を受け入れてきました。

欧州のプロジェクトは、新たなアイデアの工場でありました。人々が様々な国の異なる利益を乗り越え共通する目標を掲げ、善意と忍耐をもって共通の未来へと進む場所となってきました。

その過程の多くは複雑で煩雑でした。シェリング大臣は、この意味を良くご存知かと思えます。というのは我々はともに、多くのユーログループのセッションに出席したからです。長時間にわたるセッションでしたが、その結果は驚嘆すべきものでした。

- 欧州連合は、1648年の「ウェストファリア条約」で**国家が形成されて以来最大の革新的出来事**です。欧州議会、欧州委員会、或いは欧州司法裁判所といった組織はみな、イマヌエル・カントの「国々はその違いを国際法を通し解決することができるはずだ」との考えが正しかったことを証明しています¹。
- **単一市場**は、世界 GDP の約 4 分の 1 を占め 5 億を超える人々を擁する巨大な経済圏となりました。過去 20 年間で単一市場内の貿易は、全体の GDP の約 22% を占めるようになるなど倍増し、消費者や企業により多くの選択肢をもたらし、新たに何百万という職を生み出しました²。
- **単一通貨のユーロ**は、「私の国旗、私の国家、私の通貨」という従来の考え方に新たな側面をもたらしました。それは、「ひとつの市場、ひとつの通貨」です。ユーロは主要な準備通貨となり、これを支える新たな制度やメカニズムが誕生しました。
- さらに、**EU 拡大の変革をもたらす効果**についても考えてみてください。中欧及び東欧の新たなメンバーは、欧州の所得水準に急速に追いつきつつあります³。オーストリアをはじめとする国々も、その隣国の前進により経済的な利益を享受してきました。

1. 今日の試練に立ち向かう

こうした成果が、今日、ユーロ圏危機の遺産や難民の歴史的流入、そしてイギリスの国民投票により危機に瀕しています。これらそれぞれについて 2~3 お話したいと思えます。

ユーロ圏危機の遺産

ひとつの欧州は、危機に直面してはじめて機能するという指摘が度々なされています。ある意味真実ではあります。しかし、ユーロ圏危機は、確かにそれまでの危機とは異なる

っていました。これは一段と複雑で、結果、欧州の政策形成及び制度の限界が露呈しました。

危機の問題の根源に焦点を絞った経済危機・金融危機に対応する作戦帳があります。第一のステップは、流動性を供給し銀行制度の健全性を回復することです。財政の不均衡には、信頼できる手法で断固として取り組む必要があります。緊急を要する構造改革は、生産資源を解放します。さらにマクロ経済政策を、家計や企業を最大限支援するために活用します。

各国は、これをどのように成し遂げることができるかを示してきました。たとえば、1990年代のスウェーデンであり2009年のアメリカです。国家には、集中意思決定という利点があります。また、最も大きな影響を受ける人々を支援する能力も備えています。それ以外の人々に課税しその資金を活用するのですが、これは、結束の暗黙のメカニズムです。

ユーロ圏では、危機対応が大いに遅れまたより困難なものとなりました。これは、組織構造が不完全で政治的統合が欠如していたことによるものでした。迅速な対応を採る代わりに、合意に達するために多大な時間が費やされました。最も重要なことは、危機により、国家という概念はすでに過去のものであるという幻想が粉々に打ち砕かれたということです。これは、負担分担に関する議論に見て取ることができます。結果、カントリーリスクの分布に大きな違いが生まれました。

一方で、危機対応の面で多くが欠けていたかもしれませんが、それでもユーロ圏加盟国は、将来の危機の防火壁として「欧州安定メカニズム」を設立するなどその結束を示してきました。欧州中央銀行は、大々的な支援を行い非伝統的な政策を採用しました。さらに新たな「単一監督メカニズム」は、銀行同盟の実現に向けた大きな前進でありました。

したがって、結局のところ危機は押さえ込んだものの、その遺産が依然残っています。我々は、2017年の経済成長は、今年の1.5%から僅かに改善し1.6%だと予測しています。失業率は高止まりしています。多くの公的・民間のバランスシートは弱く、所得は大部分で停滞しています。さらに不平等であるとの認識、そして次世代の状況は一段と悪くなるのではないかと懸念が広がっています。

難民危機

こうした実際の・そして人々が感じる経済への不安が一層高まっており、伝統的なエリートと制度に対する疑問を抱く人がますます増えています⁴。こうした傾向は、前例の無い難民流入で強まっています。

昨年、欧州連合の亡命者の数は130万人と倍以上増加しました。私は、オーストリア、ドイツ、そしてスウェーデンといった難民に心と国のドアを開けている全ての人々に敬意を表したいと思います。その極めて人道的な考え方は、欧州そしてその他の地域の人々の刺激となっています。

私は、心を決め全力を傾けるならば、欧州にはこの人道的危機を切り抜けるだけの能力と資源があると確信しています。しかし、私が特に指摘したい点は二つあり、共に経済に関することです。第一に、我々の調査によると、欧州は、自国の労働者から収入を奪い去ることなく、経済に正味のプラスをもたらすことができません⁵。そして二つめは、難民を労働市場や学校に迅速に融合させることを優先事項にする必要があります。これにより、早急に彼らが経済及び社会に貢献することができるようになります。

イギリスの国民投票

お話を進めていきますが、私の思い、これは我々の思いだと確信していますが、ジョー・コックス氏のご家族、友人、関係者の皆様と共にあります。私は、他の国民や外国の文化に寛容であり続けてきたイギリスを常に尊敬しています。そして、そうした姿勢がこのように短期間で変わってしまったと考えることはできません。

しかし、これはイギリスの有権者が決定することであり、その決定は多くの要因に左右されることは明らかです。脱退に伴う経済リスクは間違いなく下振れリスクだと我々は明言してきました。

私は、イギリスが欧州連合に加盟していることでどのように利益を得てきたか、そしてこれからも得ていくか、について明らかな証拠があると考えています。

第一に、EU域内の貿易拡大による雇用と所得でプラスがあります。これは、結果的にとにかくも誕生し得た貿易ではなく、また、世界の他の地域から貿易が離れた結果の貿易でもありません。EUの誕生と単一市場が、より多くの貿易を生み出すうえで不可欠となってきました。これはこうしたことなしでは考えられなかったでしょう⁶。

そして貿易の拡大とともに、航空宇宙産業や欧州市場全体に向け自動車を生産する工場など、イギリスが欧州のサプライチェーンに組み込まれ、投資も拡大してきました。ま

た、貿易の拡大により、生産における規模の経済及び効率的な特化のそれぞれの余地が増えたことで、生産性と所得も上昇しました。

第二に、より重要な点として、EUの一部であることが、ダイナミックで活気ある経済へのイギリスの変貌を著しく促しました。EUを含め世界中から集まった才能に溢れた勤勉な移民が多なる貢献をしています。イギリスは、自国民の高い雇用水準を維持する一方で、こうした貢献から利益を得てきました。

EUに加盟することで、イギリス経済はより豊かになりました。しかし、同時にこれにより、イギリスはより多様で一段と画期的そして創造性に富んだ国になりました。全ての国に当てはまることですが、こうした新しい環境のなかで苦しんでいる人もいます。しかし、国民の大半にとりこれは大成功だといえるでしょう。

「傷つけられた栄光のなかにある世界を直視し、それでもこれを愛するには多大な勇気が必要だ」といわれています。欧州人であるイギリスの皆さんが、勇気ある決断をしひとつの欧州の一員として残ることを希望しています。

2. ダイナミックで繁栄した欧州のための政策

ではこのお話はここまでとし、欧州連合として何をすべきかについて考えてみましょう。我々は、ただいまお話した三つの試練全てに対応することができるとしても、万事順調だと考えるべきではありません。

高齢化が進む欧州は、70億を超える人々が住む世界で競争しなければならないという現実があります。そしてその70億の人々の多くが、若く労働意欲に溢れており、現代のテクノロジーとコミュニケーションのおかげでその生産性は上昇しています。サッカーでたとえるならば、欧州は、プレミアリーグに残るために努力しなければなりません。

では、何をすることができるのでしょうか。マクロ経済政策での支援の継続に加え、私は三つの分野で政策の変更を検討すべきだと考えています。

潜在成長率の促進

最初に、潜在成長率の促進です。すなわち、経済構造を開放し競争を促し新たな生産性の高いアイデアへの投資の促進です。これには、小売サービスや専門的なサービスへの参入の障壁を削減し、労働所得の税の楔を軽減し、起業コストを減らすために行政の効率性を向上させるなどを含みます。

同時に欧州は、デジタルサービスのための活気ある市場が必要です。私はいつも、シリコンバレーに根付いたクリエイティブな精神に感銘を受けています。ところで、その精神の多くに移民が貢献しているのです！欧州は、この分野での競争力を高めれば、現在の技術的革命に乗り遅れることはないでしょう。たとえば、資本市場同盟は、新規企業が十分な資金を得るのをより容易にするでしょう。

そして EU 内の 3,000 万以上、七つにひとつの職が、世界の他の地域への輸出に依存していることから、政策担当者は TTIP をはじめとする貿易協定がどのように国民の大半に利益をもたらすかを明確に示すことが重要です。

経済の頑健性を高める

第二に、欧州は、危機予防でさらなる措置が必要です。これは、財政ルールにより強力なさらなる施行のため「安定成長協定」の簡略化を意味します。これは、その信頼性を高めより大きなリスク分担への支持の構築の一助となるでしょう。

同時にこれは、銀行の破綻のため共通の預金保険制度や「財政のバックネット」に取り組むことも意味します。これらは不可欠で、銀行同盟に欠けている要素です。これを整備することが、欧州の金融制度の耐性を高め一段と経済を支えるようになるでしょう。

同時に、政策担当者はモラル・ハザードへの正当な懸念に対処する必要があります。銀行システムの保険を拡大するなら、リスクの特定・軽減を確かなものにしたいたいのでは明らかです。このことから、ユーロ圏のいくつかの国で成長を抑制している、銀行の不良債権の浄化を加速するためのより多くの努力が必要となっています。

通貨同盟をより包摂的に

政策の第三の分野は、包摂性とリスク分担に関連しています。わずか 10 年ほど前「欧州の病人」とドイツは言われていました。そしてそのドイツが今どのようになっているか、そして南欧の所得がどのように下落しているか考えてみましょう。しかし、運は再び変わる可能性があり、今日問題のない国が明日助けが必要になるかもしれません。

多くの面で、ひとつの欧州の成功は「アンサンブル」のようなものです。「パパゲーノ」から「夜の女王」と、どのようにモーツァルトが異なるレベルの声を合わせてひとつの調和の取れたパフォーマンスを作り出したか考えてみてください。

これは、より大きなリスク分担や生活水準の大きな変動を緩和するためのメカニズムがあるべきだということを示唆しています。シクリカルな下降の打撃をうけた部門や地域を支援する手段を備えた、より強力な中心的存在が担うべき役割があります。

難民の定住、気候変動への適応、輸送インフラや通信インフラへの投資など共通した大きな課題の一部に対応するための、中央集権的な投資制度から着手すべきでしょう。

多くの国で、経済改革、財政リスク分担への国民の支持が少ないことは理解しています。ですが、こうした改革は、未来のより包摂的な成長の土台を築く上で不可欠です。私は、現在でもひとつの欧州というコンセプトを市民の大部分が支持していると強く確信しています。しかし、このコンセプトは、「全ての」市民にプラスになる政策措置で説明しこれに裏打ちされなければなりません。

最後に

最後になりました。ひとつ明らかなことは、今現在欧州の人々には、サッカーを観戦する多くの時間が必要だということです。オーストリアチームの明日の対ポルトガル戦での健闘をお祈りしています。

明日は皆様のほとんどがサッカーの試合でお忙しいことでしょう。けれども、選手、そして彼らの所属するクラブを見れば、そこに欧州の姿が見えるはずです。「多様性の中で結束する」という姿が。

欧州は、共に立ち上がる時に力強さを一段と発揮します。1989年に鉄条網に囲まれた国境を開放し、後のベルリンの壁の崩壊につながったハンガリーとオーストリアのことを思い出してください。これは、開放と寛容の時でした。全ての欧州の人々のプライドと強さの根底にあるのが開放と寛容です。

こうした資質は今でも我々を形作る要素のひとつだと確信しています。我々は今こそ歩みを進め、欧州の次世代のために、より優れた繁栄した連合を作り上げなければならないのです。

ご清聴ありがとうございました。

2. 単一市場は、1992～2008年で約300万の新規雇用の創出に貢献した。（欧州委員会：20 Years of the European Single Market、2012年）
3. 「移行国」の一人当たりの所得は、1990年代にはEU15カ国の水準の約30%だったが、今日では約50%となっている（IMR 地域経済レポート：移行の25年、2014年）
4. たとえば、オーストリアでは、中間層の所得と生活水準は、相対的に失業率が低いななか、着実に上昇してきた。しかし、人々が将来に対し不透明感を抱いていることから、経済面で不安があると認識されている。
5. IMF スタッフディスカッション・ノート：融合が迅速かつ成功裏に進めば、2020年までにEU全体でGDPが0.2～0.25%上昇する可能性がある。
6. 対イギリス4条協議報告書。2016年特定事項ペーパー、ボックス1